

平成 26 年度第 2 回 食品安全モニター課題報告
「食品の安全性に関する意識と情報源について」の結果（概要）
（平成 27 年 2 ～ 3 月実施）

- 食品安全委員会は、470 名の食品安全モニター（以下「モニター」という。）に対して毎年度 2 回程度の課題報告（アンケート調査）を行っており、今回は、平成 26 年度の第 2 回目のものである。
- 食品安全モニターは、食品安全委員会が行うリスク評価や食品安全行政について一定の理解をしていただく必要があることから、大学等での履修学問、資格、職務経験等の条件を満たすことを応募資格としている。
- 今回の調査においては、食品の安全性に関する意識と情報源について質問を行った。なお、問 1 ～ 5 については、一般消費者と食品安全の専門家を対象とした「食品に係るリスク認識アンケート調査」（平成 27 年 2 ～ 3 月実施）と同じ設問とし、当該調査へ情報を提供したため、本報告では問 6 ～ 13 の結果について報告する。

(1) 健康への影響に気を付けなければならないと考えるハザードについて

ア 健康への影響に気を付けなければならないと考えるハザード [上位 5 つを選択] (問 6)

平均スコア（第 1 位：5 点、第 2 位：4 点、第 3 位：3 点、第 4 位：2 点、第 5 位：1 点）でみると、「有害微生物(細菌等)、ウイルス等による食中毒等」(3.30) が最も高く、次いで「残留農薬」(1.74)、「食品添加物」(1.55)、「放射性物質」(1.52)、「汚染物質(カドミウム、メチル水銀、ヒ素等)」(1.50)、「いわゆる健康食品」(1.33)であった。

「有害微生物(細菌等)、ウイルス等による食中毒等」は、いずれの年代・職務経験・居住地でも平均スコアが第 1 位となっている。「残留農薬」については、教育経験者、食品関係行政職経験者、食品生産・加工経験者、食品流通・販売経験者(いずれも第 2 位)で比較上位であり、研究職経験者(第 4 位)、その他(第 5 位)では比較下位であった。「食品添加物」については、医療職経験者、その他(第 2 位)、教育職経験者(第 3 位)で比較上位であり、食品関係行政職経験者(第 4 位)、食品流通・販売経験者、研究職経験者(いずれも第 5 位)、食品生産・加工経験者(第 6 位)では比較下位であった。

イ アで選択したハザードについて、最も参考となった食品安全委員会の情報（問7）

全てのハザードで最も参考となった食品安全委員会の情報は、「ホームページ」が圧倒的に多く（約6割）、情報発信型の「ホームページ」、「メールマガジン」（約2割）、「季刊誌」（約1割）が上位3位を占め、対面型の「意見交換会」、「連続講座」、「モニター会議」はわずかだった（0.0%~3.3%。「意見交換会」や「連続講座」は参加していない可能性がある）。

また、全てのハザードで、食品安全委員会の情報を確認していない者が約1割存在した。その理由は、アにおける上位6つのハザードについて見ると、いずれも「そもそも確認する気がなかったから」と「探す時間がなかったため」が比較的多く（1.5%~4.2%）、「内容が既に知っているものであったため」・「問い合わせ機関や情報を知っている知人等に聞いて確認したため」、「検索エンジンで検索したが上位にヒットしなかったため」・「ホームページで探しにくかったため」はわずかだった（0.0%~0.9%）。

ウ イで選択した食品安全委員会の情報の難易度（問8-①）

アにおける上位6つのハザードについて見ると、いずれも、「ホームページ」と「メールマガジン」について9割以上、「季刊誌」について全員が、「理解できた」又は「おおむね理解できた」と回答した。

エ イで選択した食品安全委員会の情報の情報量（問8-②）

アにおける上位6つのハザードについて見ると、「ホームページ」、「メールマガジン」、「季刊誌」のいずれも、「ちょうどよい」が6割以上で最も多かった。「ホームページ」と「メールマガジン」では「多すぎる」がこれに次ぐが（いずれも2割程度）、「季刊誌」では「多すぎる」と答えた人はいなかった。

オ イで選択した食品安全委員会の情報の納得感（問8-③、問9）

アにおける上位6つのハザードについて見ると、「ホームページ」、「メールマガジン」、「季刊誌」のいずれも、「納得できた」又は「おおむね納得できた」と回答した人が9割以上であった。

「あまり納得できなかった」又は「納得できなかった」と回答した人はわずかであり（0.0%~4.8%）、その理由としては、「記載された情報からは、安全性についてどのように判断すればよいかわからなかったため」、「食品安

全委員会と異なる見解や情報があるので、どれが正しいのかわからなかったため」、「その他」を選んだ人がいたが、「難解で理解できなかったため」、「科学的根拠が十分に感じられなかったため」、「情報が全て開示されていないのではないかと感じたため」、「食品安全委員会が発信する情報は信頼できないと感じているため」、「科学が必ずしも正しいとは限らないと思うため」を選んだ人はいなかった。

(2) 安全性について気にならなくなったハザードについて

ア 安全性について、以前は気になったが、気にならなくなったハザード[5つ選択] (問11)

「BSE(伝達性牛海綿状脳症)」(46.3%)が最も多く、次いで「食品添加物」(35.7%)、「放射性物質」(34.3%)、「遺伝子組換え食品等」(26.7%)、「残留農薬」(24.8%)となっている。「特にない」も28.1%存在した。

職務経験別に見ると、ほとんどの職務経験で「BSE(伝達性牛海綿状脳症)」が最も多く(40.6%~63.6%)、研究職経験者では「特にない」(42.2%)、医療職経験者では「食品添加物」(39.4%)が最も多かった。

年齢別に見ると、40代以上では「BSE(伝達性牛海綿状脳症)」が最も多く(41.7%~65.6%)、30代では「特にない」(45.2%)、20代では「遺伝子組換え食品等」(38.5%)が最も多かった。

モニター継続年数別では、平成24年度以前からの人と平成25年度からの人では「BSE(伝達性牛海綿状脳症)」(それぞれ50.0%、47.7%)が最も多く、平成26年度からの人では「食品添加物」(39.3%)が最も多かった。

イ ハザードごとに安全性について気にならなくなった理由[1つずつ選択] (問11、問12)

いずれのハザードも、「リスク評価についての考え方を知ったから」が最も多く(39.5%~70.2%)、「行政によるリスク管理が十分に行われているから」が第2位(13.3%~35.4%)となっている。

食品安全モニターになったことが影響しているかを尋ねたところ、全てのハザードについて、6割以上が「影響した」又は「ある程度影響した」と回答した。

(3) 食品の安全性に関する用語の調べ方について[3つ以内で選択] (問 13)

「インターネットの検索エンジンで検索して上位にヒットしたページ（ウィキペディア、質問サイト等）」（74.0%）、「食品安全委員会の用語集（ホームページに掲載されている「第5版暫定版）」」（60.8%）が圧倒的に多かった。次いで、「食品安全委員会の「ハザード別情報」（ホームページに掲載）」（35.2%）、「専門書・学術書等」（30.3%）、「食品安全委員会の「ビジュアル版用語集」（ホームページに掲載されているもの）」（28.8%）、「他の省庁・自治体で作成した用語集等の資料・ホームページ」（27.2%）が挙げられ、「上記以外の資料・ホームページなど」（3.3%）、「その他」（3.8%）はわずかだった。

年代別では、30代～60代ではいずれも「インターネットの検索エンジンで検索して上位にヒットしたページ（ウィキペディア、質問サイト等）」が最も多く（74.0%～78.7%）、20代と70代では「食品安全委員会の用語集（ホームページに掲載されている「第5版暫定版）」」（それぞれ53.8%、72.4%）が最も多かった。

平成26年度第2回食品安全モニター課題報告 「食品の安全性に関する意識と情報源について」

(1) 調査目的

内閣府食品安全委員会事務局が実施している食品安全モニター※(以下「モニター」という)の方を対象とした調査から、食品の安全性に関する意識と情報源に対する意識について明らかにする。

(2) 調査項目

調査項目は、次の2項目である。

- 1) 食品に係るリスクの認識について
- 2) 食品の安全性に関する意識と情報源について

(注) 1)については「食品に係るリスク認識アンケート調査」(平成27年2~3月実施)へ情報を提供した。

(3) 実施期間

平成27年2月20日~3月2日

(4) 対象

食品安全モニター 470名
有効回答数 423名 (有効回答率: 90.0%)

(5) 食品安全モニターの回答者人数の内訳

1) 性別・年代

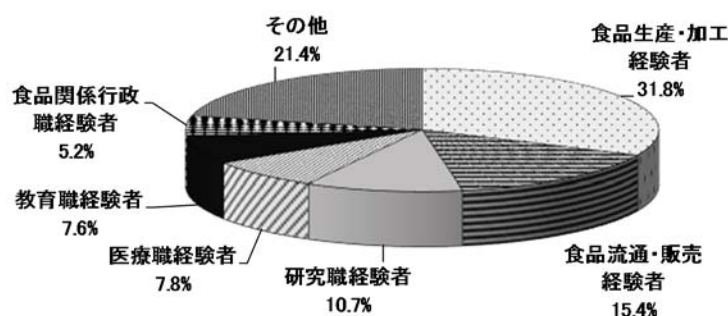
()は全モニター

	男性	女性	合計	割合
20~29歳	3人 (6人)	10人 (13人)	13人 (19人)	3.1% (4.0%)
30~39歳	21人 (22人)	52人 (58人)	73人 (80人)	17.3% (17.0%)
40~49歳	43人 (46人)	53人 (65人)	96人 (111人)	22.7% (23.6%)
50~59歳	72人 (79人)	50人 (55人)	122人 (134人)	28.8% (28.5%)
60~69歳	75人 (79人)	15人 (17人)	90人 (96人)	21.3% (20.4%)
70歳以上	22人 (22人)	7人 (8人)	29人 (30人)	6.9% (6.4%)
合計	236人 (254人)	187人 (216人)	423人 (470人)	
割合	55.8% (54.0%)	44.2% (46.0%)		100% (100%)

2) 職務経験区分

職務経験区分	区分の説明	回答者人数 (割合)
食品生産・加工経験者	現在又は過去において、食品の生産、加工に関する職業（調理従事者を含む）に5年以上従事している方	134人 (31.8%)
食品流通・販売経験者	現在又は過去において、食品の流通、販売等（会社、団体の役員を含む）に関する職業に5年以上従事している方	65人 (15.4%)
研究職経験者	現在又は過去において、試験研究機関（民間を含む）、大学等で食品や、食品の安全に関する研究の経験を5年以上有している方	45人 (10.7%)
医療職経験者	現在又は過去において、医療等に関係する職業（医師、獣医師、薬剤師等）に就いた経験を5年以上有している方	33人 (7.8%)
教育職経験者	現在又は過去において、教育に従事した経験を5年以上有している方	32人 (7.6%)
食品関係行政職経験者	過去に食品の安全に関する行政に従事した経験を有している方	22人 (5.2%)
その他	上記の項目に該当しない方（会社員、専業主婦、パート・アルバイト、自営業等）	90人 (21.4%)

図表 職務経験区分



※食品安全モニターは、モニター活動を行う上で、食品安全委員会が行うリスク評価や食品安全行政について一定の理解ができる必要があることから、次の条件のいずれかを満たしていることを応募資格としている。

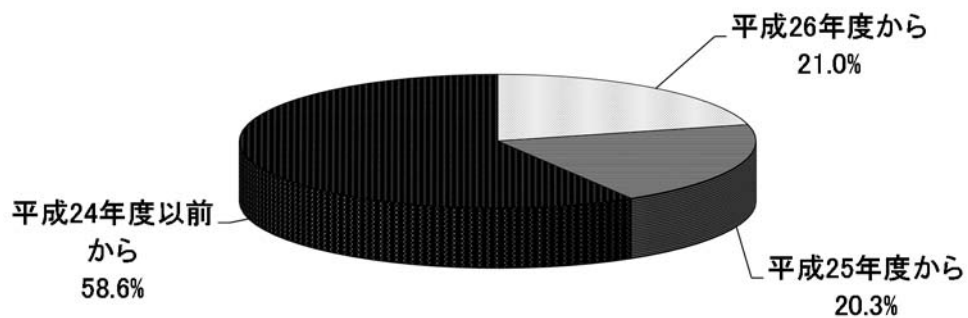
- [1] 大学等で食品に関係の深い学問（医学、歯学、薬学、獣医学、畜産学、水産学、農芸化学、家政学、食品工学等）を専攻し修了した方
- [2] 食品に関係の深い資格（栄養士、管理栄養士、調理師、専門調理師、製菓衛生師又は食品衛生管理者その他の事務局長が適当と認めるもの）を保有の方
- [3] 食品安全に関する業務に従事している方（従事していた方を含む）、又は過去に常勤公務員として食品の安全に関する行政に従事していた方

3) 性別、年代区分、職務経験の内訳

	性別		年代区分			合計
	男性	女性	20-39 歳	40-59 歳	60 歳以上	
食品生産・加工経験者	96 人 71.6%	38 人 28.4%	21 人 15.7%	79 人 59.0%	34 人 25.4%	134 人 100%
食品流通・販売経験者	46 人 70.8%	19 人 29.2%	10 人 15.4%	34 人 52.3%	21 人 32.3%	65 人 100%
研究職経験者	34 人 75.6%	11 人 24.4%	11 人 24.4%	20 人 44.4%	14 人 31.1%	45 人 100%
医療職経験者	9 人 27.3%	24 人 72.7%	9 人 27.3%	16 人 48.5%	8 人 24.2%	33 人 100%
教育職経験者	13 人 40.6%	19 人 59.4%	6 人 18.8%	16 人 50.0%	10 人 31.3%	32 人 100%
食品関係行政職経験者	14 人 63.6%	8 人 36.4%	2 人 9.1%	4 人 18.2%	16 人 72.7%	22 人 100%
その他	23 人 25.6%	67 人 74.4%	27 人 30.0%	48 人 53.3%	15 人 16.7%	90 人 100%

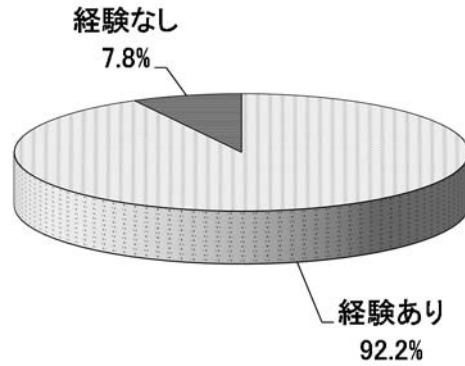
4) モニター継続区分

図表 モニター継続区分



5) 食品安全モニタ一会議出欠区分

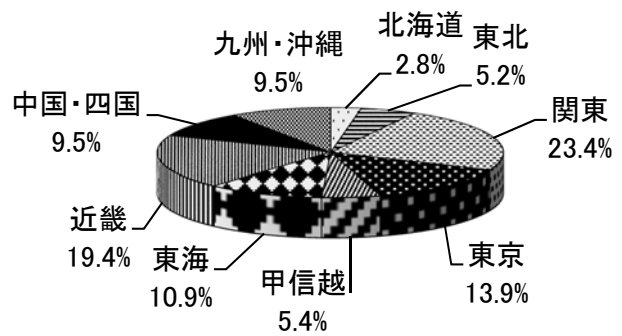
図表 食品安全モニタ一会議出欠区分



図表 居住地区分

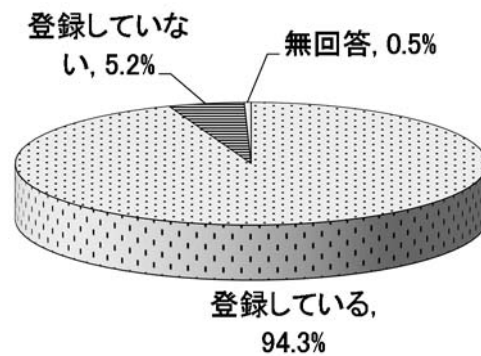
6) 居住地区分

北海道	12人 (2.8%)
東北	22人 (5.2%)
関東	99人 (23.4%)
東京	59人 (13.9%)
甲信越	23人 (5.4%)
東海	46人 (10.9%)
近畿	82人 (19.4%)
中国・四国	40人 (9.5%)
九州・沖縄	40人 (9.5%)



※「関東」は東京を除く。以下同じ。

7) 食品安全委員会メールマガジン登録区分



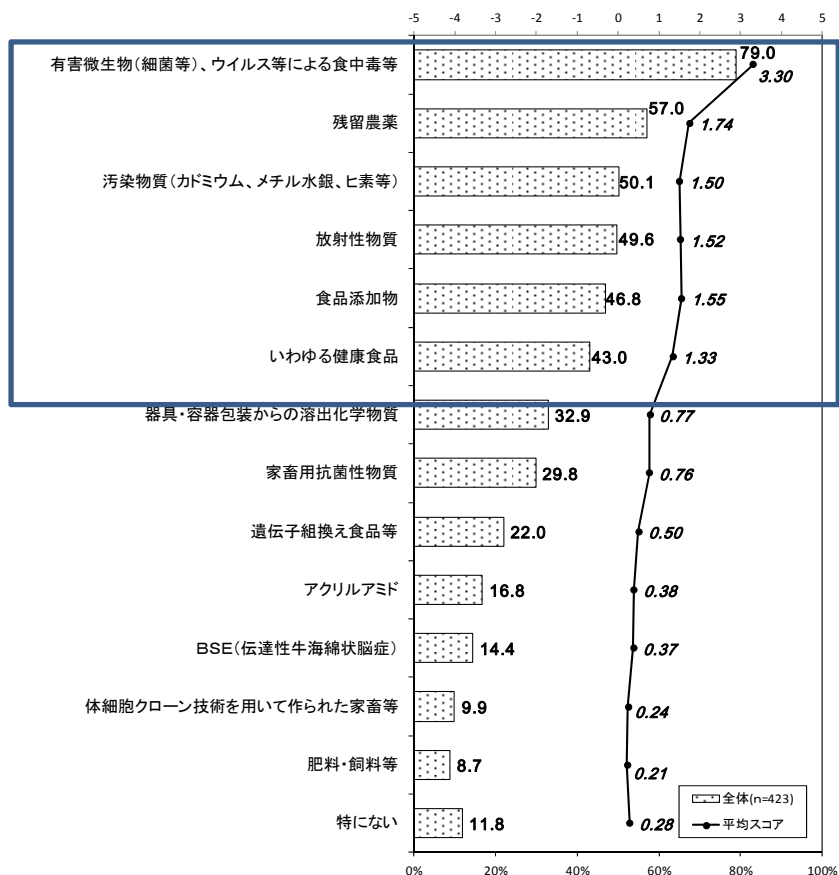
○調査結果の要約

問1～5については「食品に係るリスク認識アンケート調査」（平成27年2～3月実施）へ情報を提供した。

1. 健康への影響に気を付けなければならないと思うハザード（問6）

- 日本の現代の食生活等において、健康への影響に気を付けなければならないと考える順に5つ尋ねたところ、「有害微生物（細菌等）、ウイルス等による食中毒等」が79.0%で最も多く、次いで「残留農薬」が57.0%、「汚染物質（カドミウム、メチル水銀、ヒ素等）」が50.1%、「いわゆる健康食品」が43.0%となっている。
- 平均スコア（1位：5点、2位：4点、3位：3点、4位：2点、5位：1点の平均点数。）でみると、「有害微生物（細菌等）、ウイルス等による食中毒等」（3.30）が第1位、「残留農薬」（1.74）が第2位となっている。また、「食品添加物」は回答割合では第5位であったが平均スコアでは第3位となっている。「いわゆる健康食品」（1.33）については、回答割合同様、第6位となっている。

図表 1-1 健康への影響に気を付けなければならないと思うハザード



※回答割合の高いもの順に並び替え。

- 健康への影響に気を付けなければならないと思うハザードを属性別にみると、次のような傾向がみられる。
 - いずれの属性においても「有害微生物（細菌等）、ウイルス等による食中毒等」が第1位
 - 「有害微生物（細菌等）、ウイルス等による食中毒等」は男性（3.53）の方が女性（3.01）よりも有意に高い。
- 2位以下の傾向は下記のとおり。

属性	健康への影響に気を付けなければならないと思うハザード（問6）
性別	<ul style="list-style-type: none"> ■ 男性は「残留農薬」が第2位で女性より高い一方で、女性は「食品添加物」と「放射性物質」が男性よりも高い。 ■ 男性は「汚染物質（カドミウム、メチル水銀、ヒ素等）」が女性より有意に高い。
年代別	<ul style="list-style-type: none"> ■ 「残留農薬」はいずれの年代も比較的上位に位置している。 ■ 「放射性物質」で見ると、20代～50代は比較的高く、60歳以上では第6位。
職務経験別	<ul style="list-style-type: none"> ■ 研究職経験者では「いわゆる健康食品」、医療職経験者、その他は「食品添加物」、その他の職務経験は「残留農薬」がそれぞれ第2位。
居住地	<ul style="list-style-type: none"> ■ 「放射性物質」については、甲信越で第2位、中国・四国および九州・沖縄で第3位と比較的高い。 ■ 関東および東京では「いわゆる健康食品」、北海道および東海では「汚染物質（カドミウム、メチル水銀、ヒ素等）」、東北、近畿、中国・四国では「残留農薬」がそれぞれ第2位。

図表 1-2 健康への影響に気を付けなければならないと思うハザードの属性別結果
(平均スコア)

		有害微生物(細菌等)、ウイルス等による食中毒等	残留農薬	食品添加物	放射性物質	汚染物質(カドミウム、メチル水銀、ヒ素等)	いわゆる健康食品	器具・容器包装からの溶出化学物質	家畜用抗菌性物質	遺伝子組換え食品等	アクリルアミド	BSE(伝達性牛海綿状脳症)	体細胞クローン技術を用いて作られた家畜等	肥料・飼料等
全体(n=423)		3.29	1.74	1.55	1.52	1.48	1.33	0.77	0.76	0.50	0.38	0.37	0.24	0.21
性別	男性(n=236)	3.52	1.90	1.38	1.32	1.71	1.39	0.64	0.75	0.44	0.39	0.35	0.18	0.18
	女性(n=187)	2.99	1.53	1.76	1.76	1.20	1.25	0.94	0.77	0.59	0.37	0.39	0.32	0.26
年代別	20～29歳(n=13)	3.92	1.23	1.69	1.54	1.15	1.38	1.08	0.38	0.69	0.38	0.69	0.00	0.31
	30～39歳(n=73)	3.07	1.62	1.56	2.08	1.27	1.05	0.92	0.73	0.60	0.51	0.41	0.19	0.12
	40～49歳(n=96)	3.23	1.57	1.35	1.39	1.27	1.44	0.80	0.65	0.60	0.46	0.35	0.19	0.32
	50～59歳(n=122)	3.27	1.74	1.52	1.52	1.74	1.38	0.72	0.60	0.39	0.33	0.39	0.38	0.20
	60～69歳(n=90)	3.40	2.03	1.62	1.31	1.56	1.41	0.79	1.10	0.47	0.31	0.32	0.19	0.17
	70歳以上(n=29)	3.48	1.90	1.93	1.14	1.55	1.17	0.31	1.03	0.45	0.24	0.24	0.24	0.24
職務経験	食品生産・加工経験者(n=134)	3.48	1.90	1.25	1.29	1.84	1.55	0.80	0.70	0.33	0.45	0.34	0.21	0.17
	食品流通・販売経験者(n=65)	3.57	1.89	1.31	1.57	1.49	1.28	0.72	0.71	0.42	0.35	0.43	0.08	0.11
	研究職経験者(n=45)	3.51	1.42	1.27	1.53	1.16	1.60	1.02	1.00	0.67	0.24	0.13	0.27	0.18
	医療職経験者(n=33)	3.30	1.48	2.21	1.42	1.36	0.94	0.76	0.94	0.12	0.18	0.36	0.06	0.24
	教育職経験者(n=32)	2.97	2.06	2.00	1.63	1.00	1.38	0.47	0.69	0.78	0.59	0.16	0.41	0.47
	食品関係行政職経験者(n=22)	3.91	2.27	1.14	0.91	1.14	1.55	0.64	1.55	0.59	0.32	0.27	0.36	0.00
	その他(n=90)	2.69	1.36	2.03	1.92	1.39	1.00	0.80	0.49	0.74	0.39	0.60	0.38	0.30
モニター継続	平成26年度から(n=89)	3.47	1.85	1.60	1.42	1.30	1.34	0.79	0.62	0.57	0.38	0.43	0.17	0.36
	平成25年度から(n=86)	3.22	1.72	1.31	1.38	1.78	1.15	0.92	0.85	0.27	0.35	0.26	0.24	0.21
	平成24年度以前から(n=248)	3.26	1.71	1.62	1.60	1.47	1.39	0.71	0.78	0.56	0.39	0.39	0.27	0.16
居住地	北海道(n=12)	3.25	2.08	1.67	2.00	2.25	1.58	0.33	0.25	0.42	0.67	0.17	0.00	0.08
	東北(n=22)	3.73	1.77	1.32	0.86	1.36	1.36	0.59	1.36	0.82	0.41	0.36	0.55	0.00
	関東(n=99)	3.64	1.65	1.42	1.24	1.66	1.73	0.82	0.59	0.46	0.40	0.33	0.14	0.15
	東京(n=59)	3.71	1.41	1.24	1.31	1.41	1.46	0.78	0.92	0.54	0.47	0.27	0.20	0.29
	甲信越(n=23)	2.74	1.78	1.52	2.17	1.35	1.17	1.09	0.91	0.78	0.35	0.43	0.61	0.00
	東海(n=46)	3.11	1.59	1.46	1.43	1.85	1.22	0.87	0.57	0.50	0.54	0.26	0.30	0.26
	近畿(n=82)	2.89	2.10	1.82	1.78	1.30	0.91	0.80	0.84	0.50	0.30	0.46	0.28	0.29
	中国・四国(n=40)	3.05	1.68	1.18	1.58	1.38	1.18	0.65	1.00	0.43	0.28	0.48	0.33	0.35
	九州・沖縄(n=40)	3.15	1.80	2.33	1.85	1.13	1.28	0.63	0.53	0.33	0.18	0.45	0.00	0.18

※ 濃いグレー・白字:第1位、若干濃いグレー・白字:第2位、薄いグレー:第3位

※ 1位:5点、2位:4点、3位:3点、4位:2点、5位:1点の平均点数で算出

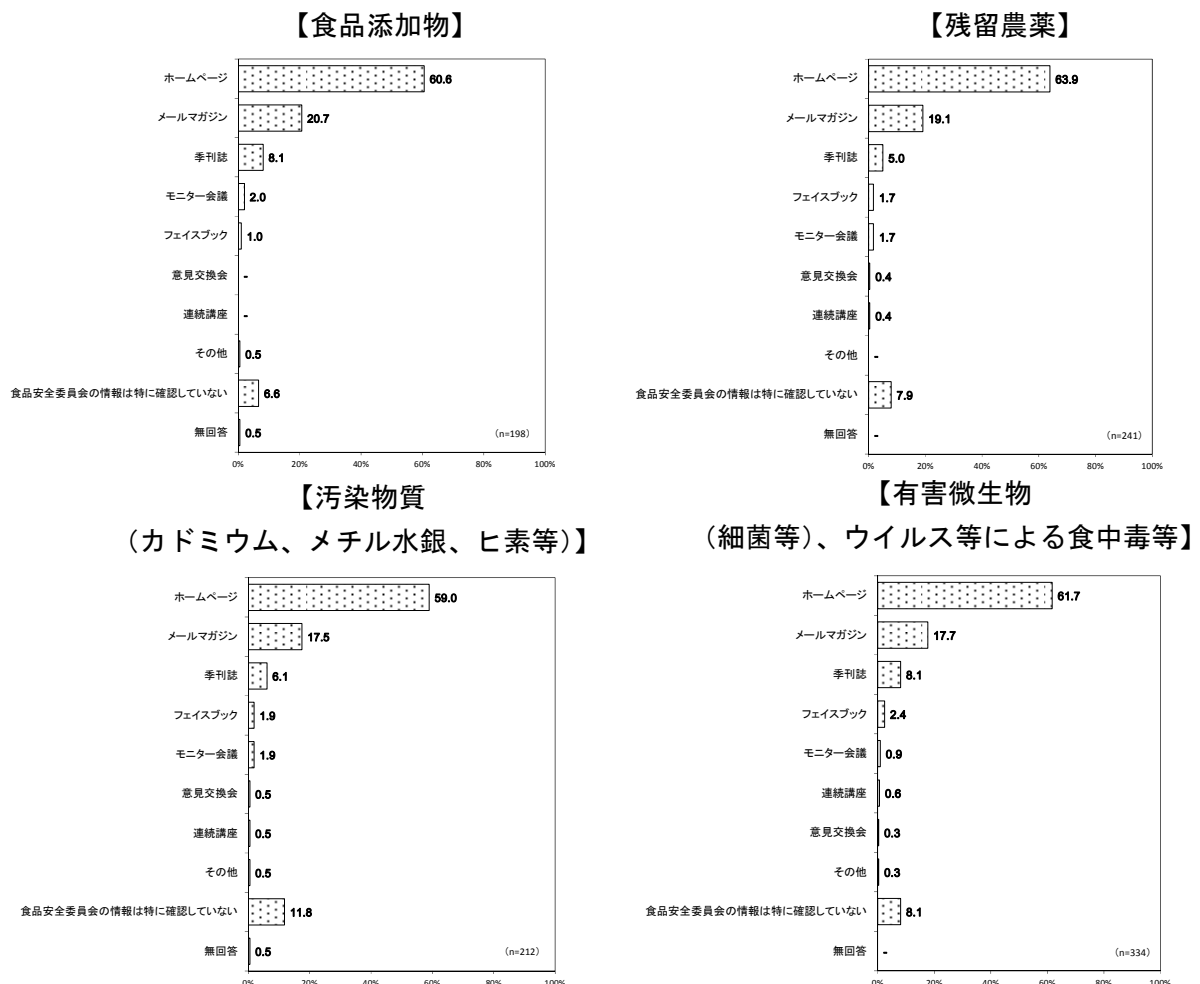
※ 全体のスコアの高いもの順に並び替え。

2. ハザードごとの安全性を確認するために最も参考になった食品安全委員会の情報源（問7）

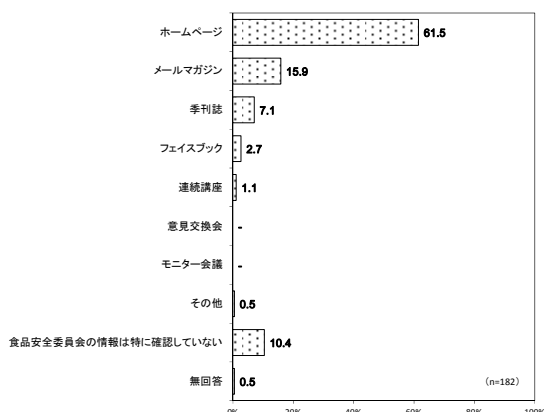
2-1. ハザードごとの安全性を確認するために最も参考になった食品安全委員会の情報源（問7-1）

- すべてのハザードで「ホームページ」が圧倒的に多く第1位。
- 健康への影響に気を付けなければならないと思うハザード（問6）における平均スコアが高い上位6項目について、安全性を確認するために最も参考になった食品安全委員会の情報源は以下の通り。

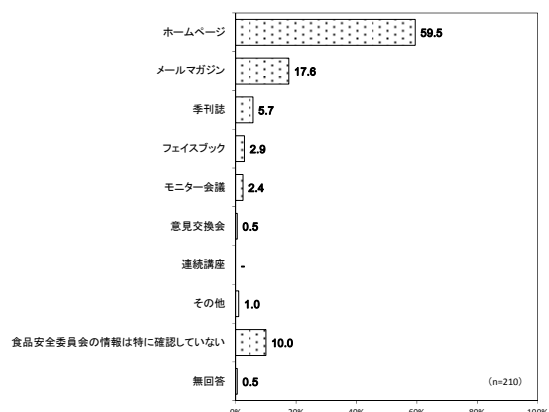
図表 2-1 ハザードごとの安全性を確認するために最も参考になった食品安全委員会の情報源



【いわゆる健康食品】



【放射性物質】



2-2. 食品安全委員会の情報を確認していない理由 (問 7-2)

- 健康への影響に気を付けなければならぬと思う上位6位のハザードについての食品安全委員会の情報を確認していない理由は以下のとおり。

図表 2-2 食品安全委員会の情報を確認していない理由

	検索エンジンで検索したが上位にヒットしなかったため	ホームページ内で探しにくかったため	食品安全委員会の情報は内容が専門的で難しかったため	探す時間がなかったため	問い合わせ機関や情報を知っている知人等に聞いて確認したため	そもそも確認する気がなかったため	内容が既に知っているものであったため	その他	無回答
F. 有害微生物(細菌等)、ウイルス等による食中毒等(n=334)	-	1人 (0.3%)	1人 (0.3%)	5人 (1.5%)	-	6人 (1.8%)	1人 (0.3%)	-	13人 (3.9%)
B. 残留農薬(n=241)	-	1人 (0.4%)	3人 (1.2%)	7人 (2.9%)	1人 (0.4%)	6人 (2.5%)	1人 (0.4%)	-	-
E. 汚染物質(カドミウム、メチル水銀、ヒ素等)(n=212)	1人 (0.5%)	-	3人 (1.4%)	7人 (3.3%)	2人 (0.9%)	9人 (4.2%)	2人 (0.9%)	1人 (0.5%)	-
L. 放射性物質(n=210)	-	1人 (0.5%)	3人 (1.4%)	8人 (3.8%)	2人 (1.0%)	6人 (2.9%)	-	1人 (0.5%)	-
A. 食品添加物(n=198)	1人 (0.5%)	-	2人 (1.0%)	4人 (2.0%)	-	5人 (2.5%)	-	1人 (0.5%)	-
J. いわゆる健康食品(n=182)	1人 (0.5%)	2人 (1.1%)	-	7人 (3.8%)	2人 (1.1%)	5人 (2.7%)	1人 (0.5%)	1人 (0.5%)	-

3. ハザードごとにおける食品安全委員会が発信している情報源に対する意識

3-1. ハザードごとにおける食品安全委員会が発信している情報の難易度（問 8-①）

- ハザードごとの安全性を確認するために見る食品安全委員会が発信している情報源（問 7）のうち、回答が多かった「ホームページ」、「メールマガジン」、「季刊誌」について、健康への影響に気を付けなければならないと思うハザード（問 6）における平均スコアが高い上位 6 項目について分析を行う。
- 「ホームページ」、「メールマガジン」、「季刊誌」いずれも「理解できた」と「おおむね理解できた」を合わせた《理解できた》が圧倒的に多い。

図表 3-1 ハザードごとにおける食品安全委員会が発信している情報の難易度

【ホームページ】

（人数）

	理解できた	おおむね理解できた	あまり理解できなかった	理解できなかった	無回答
有害微生物（細菌等）、ウイルス等による食中毒等 (n=206)	121	79	5	1	0
残留農薬 (n=154)	77	73	3	1	0
食品添加物 (n=120)	59	57	3	0	1
放射性物質 (n=125)	65	54	4	1	1
汚染物質（カドミウム、メチル水銀、ヒ素等） (n=125)	72	51	1	1	0
いわゆる健康食品 (n=112)	66	44	2	0	0

【メールマガジン】

（人数）

	理解できた	おおむね理解できた	あまり理解できなかった	理解できなかった	無回答
有害微生物（細菌等）、ウイルス等による食中毒等 (n=59)	29	29	0	0	1
残留農薬 (n=46)	18	28	0	0	0
食品添加物 (n=41)	19	22	0	0	0
放射性物質 (n=37)	20	17	0	0	0
汚染物質（カドミウム、メチル水銀、ヒ素等） (n=37)	13	24	0	0	0
いわゆる健康食品 (n=29)	15	13	0	0	1

【季刊誌】

（人数）

	理解できた	おおむね理解できた	あまり理解できなかった	理解できなかった	無回答
有害微生物（細菌等）、ウイルス等による食中毒等 (n=27)	19	8	0	0	0
残留農薬 (n=12)	7	5	0	0	0
食品添加物 (n=16)	9	7	0	0	0
放射性物質 (n=12)	7	5	0	0	0
汚染物質（カドミウム、メチル水銀、ヒ素等） (n=13)	9	4	0	0	0
いわゆる健康食品 (n=13)	8	5	0	0	0

3-2. ハザードごとにおける食品安全委員会が発信している情報の量（問8-②）

- ハザードごとの安全性を確認するために見る食品安全委員会が発信している情報源（問7）のうち、回答が多かった「ホームページ」、「メールマガジン」、「季刊誌」について、健康への影響に気を付けなければならないと思うハザード（問6）における平均スコアが高い上位6項目について分析を行う。
- 「ホームページ」、「メールマガジン」、「季刊誌」いずれも「ちょうどよい」が圧倒的に多い。

図表 3-2 ハザードごとにおける食品安全委員会が発信している情報の量

【ホームページ】

（人数）

	多すぎる	ちょうどよい	少なすぎる	無回答
有害微生物（細菌等）、ウイルス等による食中毒等（n=206）	42	147	11	6
残留農薬（n=154）	35	106	6	7
食品添加物（n=120）	29	79	4	8
放射性物質（n=125）	27	83	10	5
汚染物質（カドミウム、メチル水銀、ヒ素等）（n=125）	25	86	8	6
いわゆる健康食品（n=112）	16	88	5	3

【メールマガジン】

（人数）

	多すぎる	ちょうどよい	少なすぎる	無回答
有害微生物（細菌等）、ウイルス等による食中毒等（n=59）	8	43	5	3
残留農薬（n=46）	9	34	2	1
食品添加物（n=41）	8	30	2	1
放射性物質（n=37）	7	28	2	0
汚染物質（カドミウム、メチル水銀、ヒ素等）（n=37）	6	27	3	1
いわゆる健康食品（n=29）	3	21	2	3

【季刊誌】

（人数）

	多すぎる	ちょうどよい	少なすぎる	無回答
有害微生物（細菌等）、ウイルス等による食中毒等（n=27）	0	25	2	0
残留農薬（n=12）	0	12	0	0
食品添加物（n=16）	0	16	0	0
放射性物質（n=12）	0	12	0	0
汚染物質（カドミウム、メチル水銀、ヒ素等）（n=13）	0	11	2	0
いわゆる健康食品（n=13）	0	12	1	0

3-3. ハザードごとにおける食品安全委員会が発信している情報の納得感（問 8-③）

- ハザードごとの安全性を確認するために見る食品安全委員会が発信している情報源（問 7）のうち、回答が多かった「ホームページ」、「メールマガジン」、「季刊誌」について、健康への影響に気を付けなければならないと思うハザード（問 6）における平均スコアが高い上位 6 項目について分析を行う。
- 「ホームページ」、「メールマガジン」、「季刊誌」いずれも「納得できた」と「おおむね納得できた」を合わせた「納得できた」が圧倒的に多い。

図表 3-3 ハザードごとにおける食品安全委員会が発信している情報の納得感

【ホームページ】

(人数)

	納得できた	おおむね納得できた	あまり納得できなかった	納得できなかった	無回答
有害微生物(細菌等)、ウイルス等による食中毒等(n=206)	93	103	4	0	6
残留農薬(n=154)	61	84	3	0	6
食品添加物(n=120)	43	69	1	0	7
放射性物質(n=125)	52	62	6	0	5
汚染物質(カドミウム、メチル水銀、ヒ素等)(n=125)	52	64	3	0	6
いわゆる健康食品(n=112)	52	56	0	0	4

問9. 「あまり納得できなかった」、「納得できなかった」理由（ホームページ）

問9. 「あまり納得できなかった」、「納得できなかった」理由のカテゴリー	該当するハザード
・記載された情報からは、安全性についてどのように判断すればよいかわからなかったため	有害微生物(細菌等)、ウイルス等による食中毒等、放射性物質、残留農薬、汚染物質(カドミウム、メチル水銀、ヒ素等)、各1名
・食品安全委員会と異なる見解や情報があるので、どれが正しいのかわからなかったため	有害微生物(細菌等)、ウイルス等による食中毒等、放射性物質、残留農薬、汚染物質(カドミウム、メチル水銀、ヒ素等)、食品添加物、各1名
・その他	有害微生物(細菌等)、ウイルス等による食中毒等、残留農薬、汚染物質(カドミウム、メチル水銀、ヒ素等)、各1名

問10. 問9で「食品安全委員会と異なる見解や情報があるので、どれが正しいのかわからなかったため」と回答した人の具体的な情報

「食品安全委員会と異なる見解や情報があるので、どれが正しいのかわからなかったため」と回答した人の具体的な回答	該当するハザード
・マスコミが編集・発信した見解・情報	有害微生物(細菌等)、ウイルス等による食中毒等、放射性物質、残留農薬、汚染物質(カドミウム、メチル水銀、ヒ素等)、食品添加物、各1名
・NPO、消費者団体等が編集・発信した見解・情報(マスコミが編集・発信した見解・情報、インターネット上で一般人が編集・発信した見解・情報を除く)	有害微生物(細菌等)、ウイルス等による食中毒等、放射性物質、残留農薬、汚染物質(カドミウム、メチル水銀、ヒ素等)、食品添加物、各1名
・医師が直接発信した見解・情報(マスコミが編集・発信した見解・情報、インターネット上で一般人が編集・発信した見解・情報を除く)	有害微生物(細菌等)、ウイルス等による食中毒等、放射性物質、残留農薬、汚染物質(カドミウム、メチル水銀、ヒ素等)、食品添加物、各1名

【メールマガジン】

(人数)

	納得できた	おおむね納得できた	あまり納得できなかった	納得できなかった	無回答
有害微生物(細菌等)、ウイルス等による食中毒等(n=59)	17	37	1	0	4
残留農薬(n=46)	10	32	2	0	2
食品添加物(n=41)	10	28	1	0	2
放射性物質(n=37)	11	25	0	0	1
汚染物質(カドミウム、メチル水銀、ヒ素等)(n=37)	7	28	1	0	1
いわゆる健康食品(n=29)	7	19	0	0	3

問9. 「あまり納得できなかった」、「納得できなかった」理由 (メールマガジン)

「あまり納得できなかった」、「納得できなかった」理由の 카테고리	該当するハザード
・食品安全委員会と異なる見解や情報があるので、どれが正しいのかわからなかったため	有害微生物(細菌等)、ウイルス等による食中毒等、汚染物質(カドミウム、メチル水銀、ヒ素等)、各1名
・その他	残留農薬、食品添加物、各1名

問10. 問9で「食品安全委員会と異なる見解や情報があるので、どれが正しいのかわからなかったため」と回答した人の具体的な情報

「食品安全委員会と異なる見解や情報があるので、どれが正しいのかわからなかったため」と回答した人の具体的な情報	該当するハザード
・マスコミが編集・発信した見解・情報	有害微生物(細菌等)、ウイルス等による食中毒等、汚染物質(カドミウム、メチル水銀、ヒ素等)、各1名
・NPO、消費者団体等が編集・発信した見解・情報(マスコミが編集・発信した見解・情報、インターネット上で一般人が編集・発信した見解・情報を除く)	有害微生物(細菌等)、ウイルス等による食中毒等、汚染物質(カドミウム、メチル水銀、ヒ素等)、各1名
・医師が直接発信した見解・情報(マスコミが編集・発信した見解・情報、インターネット上で一般人が編集・発信した見解・情報を除く)	有害微生物(細菌等)、ウイルス等による食中毒等、汚染物質(カドミウム、メチル水銀、ヒ素等)、各1名

【季刊誌】

(人数)

	納得できた	おおむね納得できた	あまり納得できなかった	納得できなかった	無回答
有害微生物(細菌等)、ウイルス等による食中毒等(n=27)	15	12	0	0	0
残留農薬(n=12)	5	7	0	0	0
食品添加物(n=16)	7	9	0	0	0
放射性物質(n=12)	4	8	0	0	0
汚染物質(カドミウム、メチル水銀、ヒ素等)(n=13)	7	6	0	0	0
いわゆる健康食品(n=13)	5	8	0	0	0

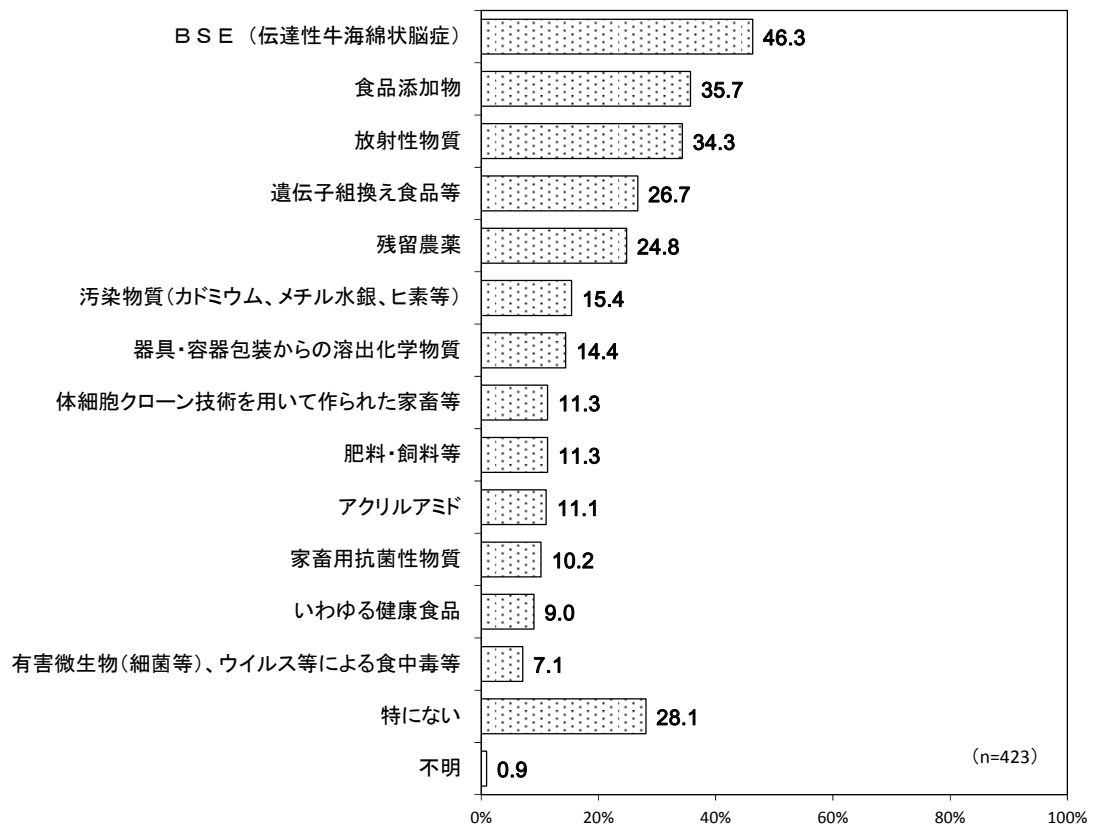
※問9. 「季刊誌」について「あまり納得できなかった」、「納得できなかった」の回答者はいなかった。

4. 安全性について気にならなくなったハザード

4-1. 安全性について気にならなくなったハザード（問 11-1）

- 安全性について以前は気になったが、その後は気にならなくなったハザードについて5つ以内で尋ねたところ、「BSE（伝達性牛海綿状脳症）」が46.3%で最も多く、次いで「食品添加物」が35.7%、「放射性物質」が34.3%となっている。

図表 4-1-1 安全性について気にならなくなったハザード



※ 全体の回答割合が高いもの順に並び替え。

- 安全性について気にならなくなったハザードについて属性別にみると、次のような傾向がみられる。
 - 男女、40代以上、研究職経験者・医療職経験者以外、平成25年度から・平成24年度以前からモニター、北海道・東海以外で「BSE（伝達性牛海綿状脳症）」が最も多い。

図表 4-1-2 安全性について気にならなくなったハザードの属性別結果

		BSE（伝達性牛海綿状脳症）	食品添加物	放射性物質	遺伝子組換え食品等	残留農薬	汚染物質（カドミウム、メチル水銀、ヒ素等）	器具・容器包装からの溶出化学物質	体細胞クローン技術を用いた家畜等	肥料・飼料等	アクリルアミド	家畜用抗菌性物質	いわゆる健康食品	有害微生物（細菌等）、ウイルス等による食中毒等	特になし	無回答
全体(n=423)		46.3	35.7	34.3	26.7	24.8	15.4	14.4	11.3	11.3	11.1	10.2	9.0	7.1	28.1	0.9
性別	男性(n=236)	52.5	33.9	38.6	30.9	25.4	16.5	20.3	14.4	13.1	15.7	10.6	11.0	8.1	25.0	0.4
	女性(n=187)	38.5	38.0	28.9	21.4	24.1	13.9	7.0	7.5	9.1	5.3	9.6	6.4	5.9	32.1	1.6
年代別	20-29歳(n=13)	30.8	23.1	30.8	38.5	7.7	15.4	15.4	15.4	7.7	-	7.7	15.4	7.7	15.4	-
	30-39歳(n=73)	34.2	31.5	24.7	11.0	17.8	9.6	4.1	4.1	2.7	2.7	9.6	2.7	8.2	45.2	-
	40-49歳(n=96)	41.7	36.5	32.3	26.0	22.9	8.3	6.3	11.5	7.3	12.5	3.1	8.3	3.1	39.6	2.1
	50-59歳(n=122)	42.6	38.5	32.8	25.4	22.1	12.3	9.8	5.7	13.9	13.1	9.0	7.4	5.7	31.1	0.8
	60-69歳(n=90)	65.6	34.4	42.2	35.6	36.7	23.3	25.6	23.3	16.7	15.6	13.3	13.3	10.0	7.8	1.1
	70歳以上(n=29)	55.2	41.4	48.3	41.4	31.0	41.4	51.7	13.8	20.7	10.3	31.0	17.2	13.8	3.4	-
職務経験	食品生産・加工経験者(n=134)	53.7	37.3	42.5	32.8	24.6	14.9	17.9	7.5	9.7	17.9	11.9	8.2	8.2	23.9	-
	食品流通・販売経験者(n=65)	44.6	36.9	33.8	29.2	27.7	16.9	15.4	10.8	6.2	10.8	7.7	7.7	7.7	30.8	-
	研究職経験者(n=45)	35.6	28.9	26.7	13.3	24.4	15.6	15.6	20.0	20.0	13.3	6.7	11.1	6.7	42.2	-
	医療職経験者(n=33)	36.4	39.4	30.3	24.2	30.3	15.2	6.1	9.1	12.1	3.0	15.2	6.1	6.1	27.3	-
	教育職経験者(n=32)	40.6	31.3	34.4	31.3	25.0	15.6	9.4	6.3	12.5	9.4	15.6	12.5	12.5	21.9	-
	食品関係行政職経験者(n=22)	63.6	50.0	27.3	45.5	22.7	18.2	18.2	22.7	22.7	4.5	22.7	13.6	-	13.6	4.5
	その他(n=90)	42.2	32.2	28.9	16.7	21.1	14.4	12.2	13.3	10.0	5.6	4.4	8.9	5.6	32.2	3.3
モニター継続	平成26年度から(n=89)	34.8	39.3	32.6	24.7	25.8	12.4	7.9	11.2	5.6	4.5	10.1	6.7	5.6	24.7	1.1
	平成25年度から(n=86)	47.7	36.0	38.4	29.1	22.1	16.3	17.4	8.1	15.1	11.6	7.0	11.6	10.5	31.4	-
	平成24年度以前から(n=248)	50.0	34.3	33.5	26.6	25.4	16.1	15.7	12.5	12.1	13.3	11.3	8.9	6.5	28.2	1.2
居住地	北海道(n=12)	50.0	16.7	58.3	33.3	25.0	25.0	16.7	25.0	25.0	25.0	-	-	8.3	16.7	-
	東北(n=22)	45.5	22.7	40.9	9.1	13.6	-	13.6	13.6	9.1	22.7	4.5	9.1	9.1	27.3	-
	関東(n=99)	50.5	41.4	41.4	27.3	29.3	14.1	14.1	11.1	14.1	17.2	12.1	9.1	9.1	26.3	-
	東京(n=59)	42.4	35.6	39.0	16.9	25.4	11.9	6.8	6.8	6.8	10.2	6.8	1.7	1.7	37.3	-
	甲信越(n=23)	56.5	39.1	43.5	39.1	26.1	13.0	17.4	17.4	8.7	-	8.7	8.7	-	21.7	4.3
	東海(n=46)	37.0	39.1	37.0	30.4	23.9	10.9	17.4	13.0	10.9	2.2	13.0	10.9	8.7	30.4	-
	近畿(n=82)	41.5	30.5	15.9	28.0	19.5	12.2	20.7	4.9	12.2	9.8	7.3	14.6	7.3	29.3	2.4
	中国・四国(n=40)	45.0	37.5	32.5	22.5	27.5	27.5	15.0	17.5	15.0	12.5	12.5	12.5	10.0	32.5	-
	九州・沖縄(n=40)	57.5	37.5	30.0	37.5	27.5	30.0	7.5	15.0	5.0	5.0	17.5	5.0	7.5	17.5	2.5

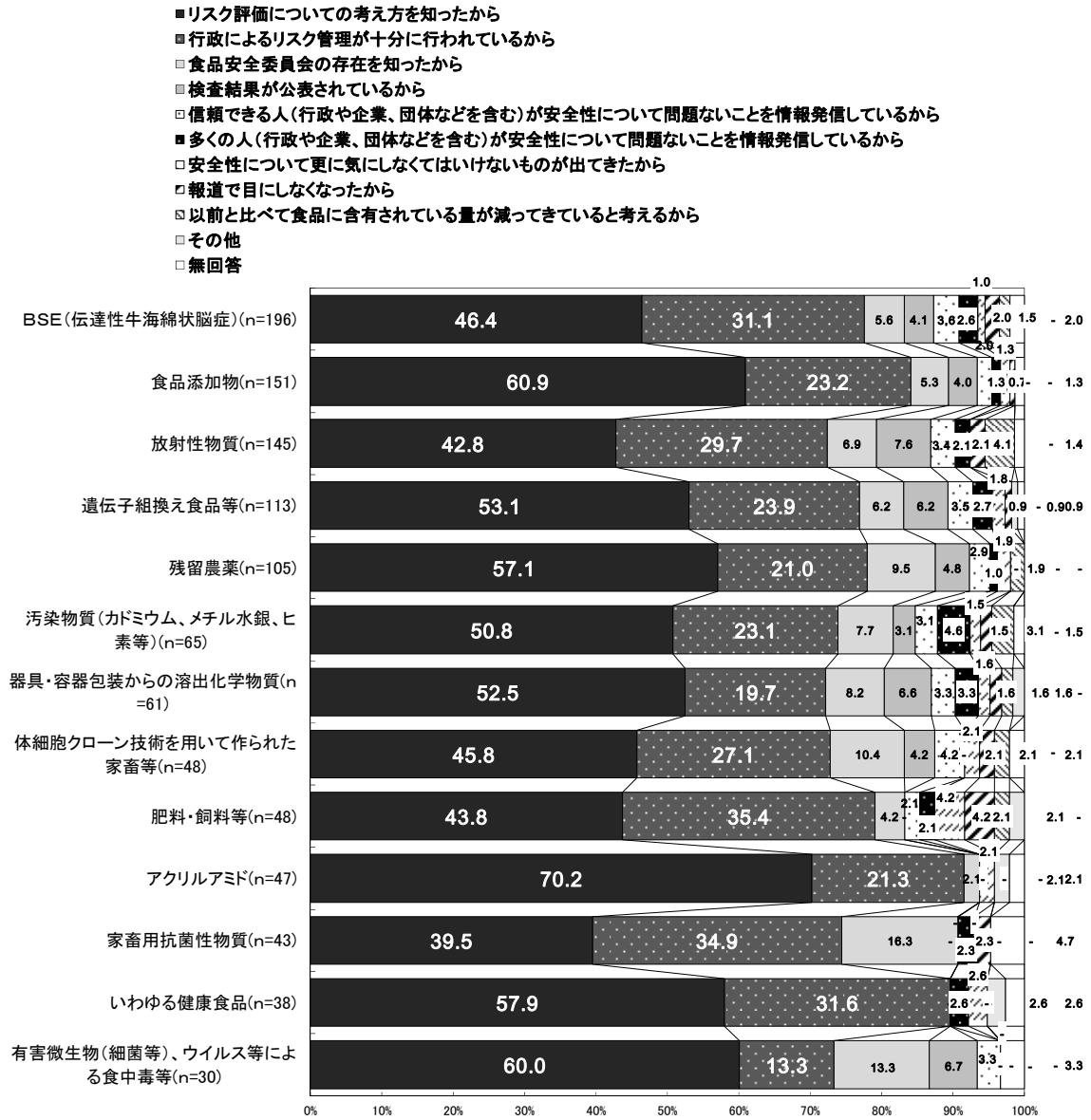
※ 濃いグレー白字：第1位、若干濃いグレー白字：第2位、薄いグレー：第3位

※ 全体の回答割合が高いもの順に並び替え。

4-2. ハザードごとの安全性について気にならなくなった理由（問 11-2）

- ハザードごとに安全性について気にならなくなった理由を尋ねたところ、いずれのハザードも「リスク評価についての考え方を知ったから」が第1位、「行政によるリスク管理が十分に行われているから」が第2位となっている。

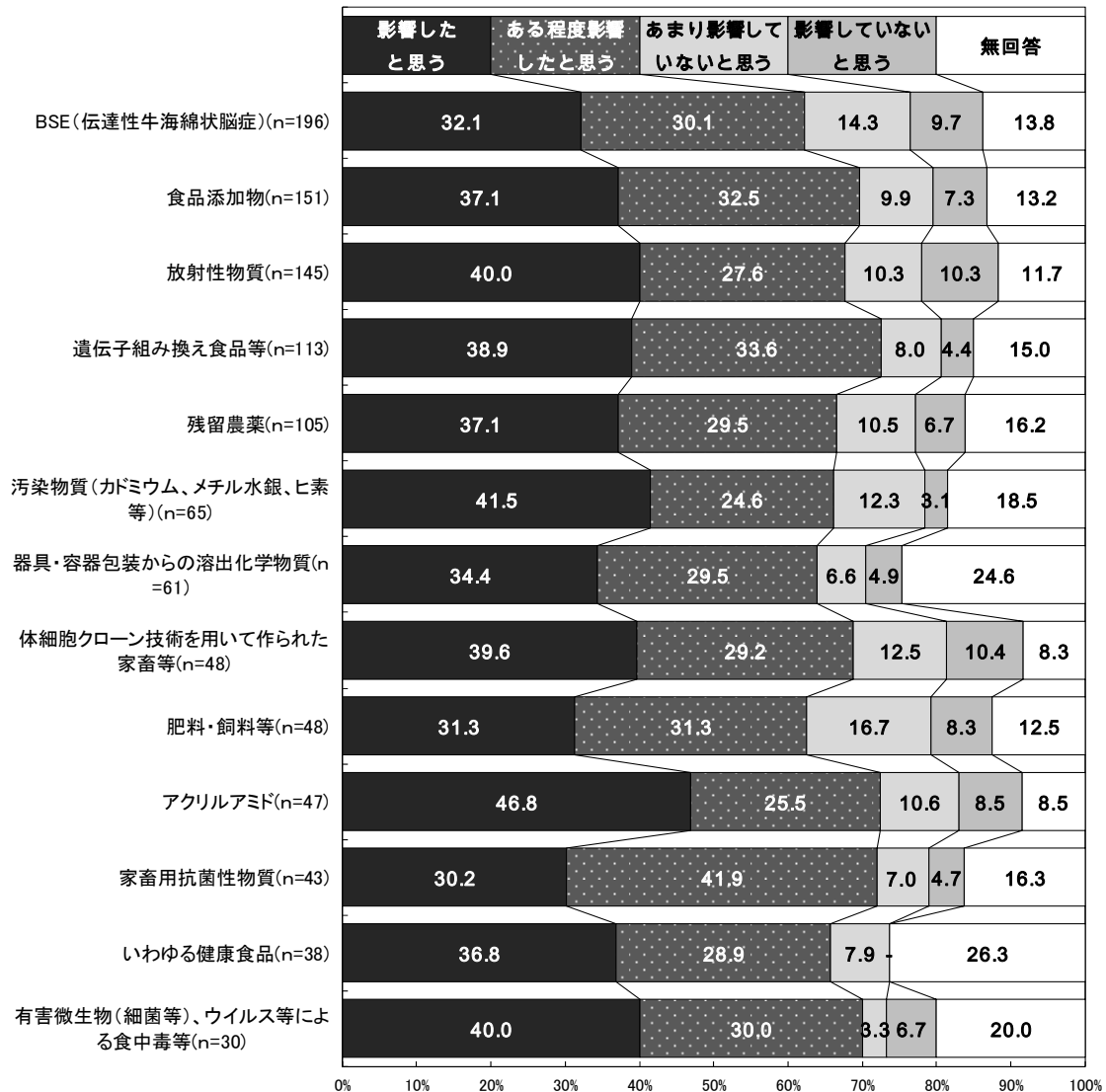
図表 4-2 ハザードごとにおける安全性について気にならなくなった理由



5. ハザードごとにおける食品安全モニターになったことによる安全性に対する影響（問 12）

- 食品安全モニターになったことでハザードの安全性について気にならなくなることに影響したかを尋ねたところ、いずれのハザードも「影響したと思う」と「ある程度影響したと思う」を合わせた《影響したと思う》が過半数を占めている。

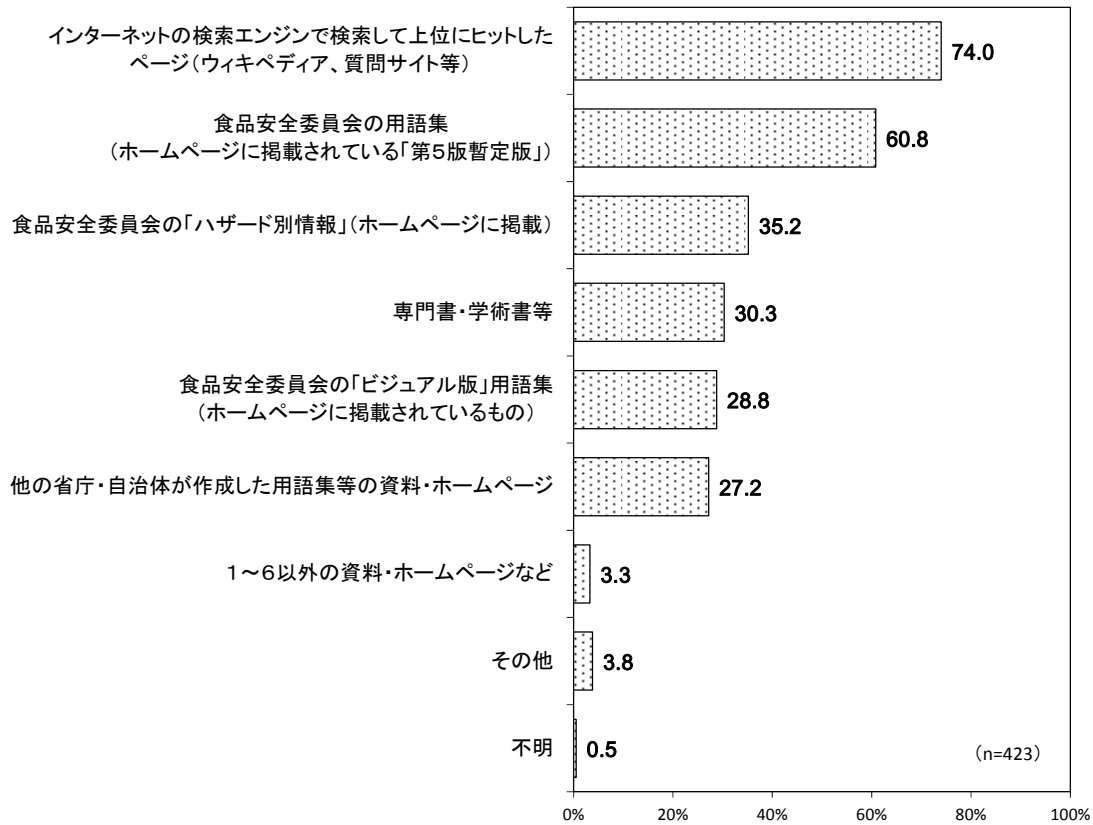
図表 5 ハザードごとにおける食品安全モニターになったことによる安全性に対する影響



6. 食品の安全性に関する用語の調べ方（問 13）

- 食品の安全性に関してわからない用語がある場合、どのように調べるかを3つ以内で尋ねたところ、「インターネットの検索エンジンで検索して上位にヒットしたページ（ウィキペディア、質問サイト等）」が74.0%で最も多く、次いで「食品安全委員会の用語集（ホームページに掲載されている「第5版暫定版）」が60.8%、「食品安全委員会の「ハザード別情報」（ホームページに掲載）」が35.2%となっている。

図表 6-1 食品の安全性に関する用語の調べ方



- 食品の安全性に関するわからない用語がでた場合の調べ方について属性別にみると、次のような傾向がみられる。
 - 「インターネットの検索エンジンで検索して上位にヒットしたページ（ウィキペディア、質問サイト等）」が最も多いのは、男女、30代～60代、食品生産・加工経験者、食品流通・販売経験者、教育職経験者、その他、モニター継続別、モニター会議出欠別。
 - 「食品安全委員会の用語集（ホームページに掲載されている「第5版暫定版）」が最も多いのは、20代、70歳以上、医療職経験者、教育職経験者。

図表 6-2 食品の安全性に関する用語の調べ方の属性別結果

		インターネットの検索エンジンで検索して上位にヒットしたページ（ウィキペディア、質問サイト等）	食品安全委員会の用語集（ホームページに掲載されている「第5版暫定版」）	食品安全委員会の「ハザード別情報」（ホームページに掲載）	専門書・学術書等	食品安全委員会の「ビジュアル版」用語集（ホームページに掲載されているもの）	他の省庁・自治体で作成した用語集等の資料・ホームページ	1～6以外の資料・ホームページなど	その他	無回答
全 体(n=423)		74.0	60.8	35.2	30.3	28.8	27.2	3.3	3.8	0.5
性別	男性(n=236)	76.7	65.7	35.6	34.7	29.2	28.0	3.8	3.0	0.4
	女性(n=187)	70.6	54.5	34.8	24.6	28.3	26.2	2.7	4.8	0.5
年代別	20～29歳(n=13)	46.2	53.8	38.5	46.2	30.8	30.8	-	-	-
	30～39歳(n=73)	74.0	50.7	34.2	32.9	27.4	37.0	4.1	5.5	-
	40～49歳(n=96)	77.1	56.3	39.6	29.2	22.9	19.8	5.2	6.3	-
	50～59歳(n=122)	78.7	58.2	26.2	31.1	27.0	30.3	2.5	3.3	-
	60～69歳(n=90)	74.4	74.4	40.0	22.2	37.8	26.7	3.3	2.2	-
	70歳以上(n=29)	55.2	72.4	44.8	41.4	31.0	13.8	-	-	6.9
職務経験	食品生産・加工経験者(n=134)	73.1	60.4	35.1	29.9	35.1	32.1	3.0	3.0	-
	食品流通・販売経験者(n=65)	86.2	63.1	26.2	16.9	32.3	24.6	7.7	4.6	-
	研究職経験者(n=45)	71.1	62.2	42.2	46.7	15.6	42.2	2.2	-	-
	医療職経験者(n=33)	54.5	69.7	30.3	42.4	30.3	27.3	3.0	12.1	-
	教育職経験者(n=32)	71.9	59.4	34.4	31.3	25.0	25.0	-	6.3	-
	食品関係行政職経験者(n=22)	77.3	81.8	54.5	27.3	27.3	18.2	-	-	-
	その他(n=90)	74.4	51.1	35.6	28.9	25.6	15.6	3.3	3.3	2.2
モニター継続	平成26年度から(n=89)	70.8	55.1	32.6	32.6	31.5	28.1	4.5	6.7	-
	平成25年度から(n=86)	67.4	60.5	37.2	37.2	24.4	36.0	3.5	2.3	-
	平成24年度以前から(n=248)	77.4	62.9	35.5	27.0	29.4	23.8	2.8	3.2	0.8

※ 濃いグレー白字：第1位、若干濃いグレー白字：第2位、薄いグレー：第3位

※ 全体の回答割合が高いもの順に並び替え。

平成 26 年度第 2 回食品安全モニター課題報告
「食品の安全性に関する意識と情報源について」

1 食品に係るリスクの認識について

注意：問1・問2は、課題報告書では回答欄がひとまとめになっています。確認しながら入力してください。

問1 日本の現代の食生活等において、健康への影響に気を付けなければならないと考える項目はどれですか。次の選択肢の中から、気を付ける必要があるものを、その必要性の大きい順に10個選んでください。

【選択肢：項目】

- A 病原性微生物(腸管出血性大腸菌 O157、サルモネラ、カンピロバクター、ノロウイルス等)
- B フグ毒、キノコの毒等の自然毒
- C BSE(牛海綿状脳症)
- D 農薬の残留
- E 食品添加物
- F 動物用医薬品の畜産物への残留
- G アクリルアミド、クロロプロパノール等の加工工程で生成されるもの
- H 食品容器からの溶出化学物質(ビスフェノールA等)
- I カビ毒(アフラトキシン、デオキシニバレノール、ニバレノール等)
- J カドミウム、メチル水銀、ヒ素等の自然界の金属元素
- K ダイオキシン類
- L 遺伝子組換え食品
- M 輸入食品
- N アレルギー
- O 健康食品・サプリメント
- P タバコ
- Q 飲酒
- R 偏食や過食
- S その他(具体的に記入してください：)

問2 問1において選択した項目について、健康への影響に気を付けなければならないと感じている理由を、次の選択肢の中から1つずつ選んでください。

【選択肢：健康への影響に気を付けなければならないと感じている理由】

- 1 健康への悪影響があるとメディア(新聞、テレビ等)で報じられているため
- 2 健康への悪影響があるという出版物を読んだため
- 3 知人または信頼できる人が健康に悪影響があると言っているため
- 4 科学的なリスクが高いと考えられるため
- 5 政府による規制について、不十分だと感じる又は不安があるため
- 6 企業による法令遵守や衛生管理について、不十分又だと感じる又は不安があるため
- 7 過去に問題となった事例があるため
- 8 子供や子孫に悪影響が起こるかもしれないため
- 9 漠然と
- 10 その他(具体的に記入して下さい：)

問3 日本の現代の食生活等において、ガンの原因になると思うものはどれですか。次の
選択肢の中から、最も大きな原因となると思うものから順に5つ選んで下さい。

【選択肢】

- 1 一般的な食べ物
- 2 食品のこげ
- 3 飲酒
- 4 偏食や過食
- 5 微生物(ウイルス、細菌)
- 6 フグ毒、キノコの毒等の自然毒
- 7 農薬の残留
- 8 食品添加物
- 9 医薬品
- 10 アクリルアミド、クロロプロパノール等の加工工程で生成されるもの
- 11 カビ毒(アフラトキシン、デオキシニバレノール、ニバレノール)
- 12 カドミウム、メチル水銀、ヒ素等の自然界の金属元素
- 13 ダイオキシン類
- 14 遺伝子組換え食品
- 15 健康食品・サプリメント
- 16 大豆イソフラボン
- 17 食品中の放射性物質
- 18 自然放射線(宇宙線、大地から)
- 19 タバコ
- 20 加齢
- 21 性生活
- 22 大気汚染・公害
- 23 その他(具体的に記入してください:)

問4 食品の安全性に関する情報はどこから入手しようと思いますか。
次の選択肢の中から、情報を多く入手しようと思う順に5つ選んでください。

【選択肢】

- 1 食品安全委員会
- 2 食品安全委員会以外の国の機関(厚生労働省、農林水産省等)
- 3 地方自治体(保健所を含む)
- 4 大学・研究機関
- 5 食品メーカー
- 6 健康食品業者
- 7 スーパー等小売業者
- 8 農家(生産者)
- 9 消費者団体
- 10 テレビのニュース
- 11 テレビのワイドショー等
- 12 新聞
- 13 雑誌
- 14 書籍
- 15 インターネット上の一般ホームページ情報(上記1～14以外)
- 16 フェイスブック・ツイッター等のSNS、ブログ(上記1～14以外)
- 17 家族・知人
- 18 その他(具体的に記入してください:)

問5 食品の安全性に関して、信頼性が高いと考える情報入手先はどれですか。
次の選択肢の中から、信頼性が高いと考える順に5つ選んでください。

【選択肢】

- 1 食品安全委員会
- 2 食品安全委員会以外の国の機関(厚生労働省、農林水産省等)
- 3 地方自治体(保健所を含む)
- 4 大学・研究機関
- 5 食品メーカー
- 6 健康食品業者
- 7 スーパー等小売業者
- 8 農家(生産者)
- 9 消費者団体
- 10 テレビのニュース
- 11 テレビのワイドショー等
- 12 新聞
- 13 雑誌
- 14 書籍
- 15 インターネット上の一般情報(上記1～14以外)
- 16 フェイスブック、ツイッター等ソーシャル・ネットワーキング・サービス(上記1～14以外)
- 17 家族・知人
- 18 その他(具体的に:)

2 食品の安全性に関する意識と情報源について

問1～問5は、食生活以外の生活習慣も含めて、皆さんが健康への影響に気を付けなければならないと考える項目についてお尋ねしました。

以下の問6～問13については、平成26年度第1回の課題報告結果との比較や、更にその要因を明らかにするために、お尋ねします。

<設問の中のハザード(危害要因)等について、問1～問5と共通するものもありますが、それぞれ調査目的が異なりますので、ご理解の程よろしくをお願いします。>

注意：問6～問10は、課題報告書では回答欄がひとまとめになっています。確認しながら入力してください。

問6 あなたが日本の現代の食生活等において、健康への影響に気をつけなければならないと考えているハザードはどれですか。気を付けなければならないと考える順に5つまで選んでください。

【選択肢:ハザード】

- A 食品添加物
- B 残留農薬
- C 家畜用抗菌性物質
- D 器具・容器包装からの溶出化学物質
- E 汚染物質（カドミウム、メチル水銀、ヒ素等）
- F 有害微生物（細菌等）、ウイルス等による食中毒等
- G BSE（伝達性牛海綿状脳症）
- H 遺伝子組換え食品等
- I 体細胞クローン技術を用いて作られた家畜等
- J いわゆる健康食品※注1
- K 肥料・飼料等
- L 放射性物質
- M アクリルアミド
- N 特にない

注1：「いわゆる健康食品」とは、健康増進法（平成14年法律第103号）に基づく特定保健用食品及び栄養機能食品以外のもので、健康の保持増進に資する食品として販売・利用されるものを広く指しています。（以下、問11においても同じとします。）

問7 問6で気を付けなければならないと考えるハザードとして選んだもの(N以外のもの)についてお聞きします。これらのハザードの安全性を確認するために、以下の食品安全委員会が発信している情報はご覧になりましたか。最も参考になった情報を、問6で選んだハザードごとに次の選択肢の中から1つずつ選んでください。

<p>【選択肢：食品安全委員会が発信している情報】</p> <p>1 ホームページ</p> <p>2 フェイスブック</p> <p>3 メールマガジン</p> <p>4 季刊誌</p> <p>5 意見交換会</p> <p>6 連続講座</p> <p>7 モニター会議</p> <p>8 その他（具体的に記入してください： ）</p> <p>9 食品安全委員会の情報は特に確認していない</p>	
<p>9を選択した方は、その理由を下記のア～クから選んで下さい。</p>	
<p>ア 検索エンジンで検索したが上位にヒットしなかったため</p> <p>イ ホームページ内が探しにくかったため</p> <p>ウ 食品安全委員会の情報は内容が専門的で難しいため</p> <p>エ 探す時間がなかったため</p>	<p>オ 問い合わせ機関や、情報を知っている知人等に聞いて確認したため</p> <p>カ そもそも確認する気がなかったため</p> <p>キ 内容が既に知っているものであったため</p> <p>ク その他（具体的に記入してください： ）</p>

問8 問7で選んだ食品安全委員会から発信している情報（1～8）についてお聞きします。確認された情報の難易度や量、納得感について、どのように感じましたか。最も当てはまるものを、問7で選んだ情報ごとに、次の事項①～③について、それぞれ1つずつ選んでください。

<p><事項①：></p> <p>1～8の情報の難易度></p> <p>1 理解できた</p> <p>2 おおむね理解できた</p> <p>3 あまり理解できなかった</p> <p>4 理解できなかった</p>	<p><事項②：></p> <p>1～8の情報の量></p> <p>1 多すぎる</p> <p>2 ちょうどよい</p> <p>3 少なすぎる</p>	<p><事項③：1～8の></p> <p>情報に対する納得感></p> <p>1 納得できた</p> <p>2 おおむね納得できた</p> <p>3 あまり納得できなかった</p> <p>4 全く納得できなかった</p>
--	--	---

問9 問8の事項③「情報に対する納得感」で「3 あまり納得できなかった」、「4 全く納得できなかった」と回答した方にお尋ねします。その情報について、納得できなかったと思う理由は何ですか。次の選択肢の中から1つ選んでください。

【選択肢】

- 1 記載された情報からは、安全性についてどのように判断すればよいかわからなかったため
- 2 難解で理解できなかったため
- 3 科学的根拠が十分に感じられなかったため
- 4 情報が全て開示されていないのではないかと感じたため
- 5 食品安全委員会と異なる見解や情報があるので、どれが正しいのかわからなかったため
- 6 食品安全委員会が発信する情報は信頼できないと感じているため。
- 7 科学が必ずしも正しいとは限らないと思うため
- 8 その他（具体的に記入して下さい： ）

問10 問9で「5 食品安全委員会と異なる見解や情報があるので、どれが正しいのかわからないため」と回答した方にお尋ねします。この場合の「異なる見解や情報」とは具体的にどのようなものですか。該当するものを、次の選択肢の中から3つ選んでください。

【選択肢】

- 1 マスコミが編集・発信した見解・情報
- 2 インターネット上のコミュニティサイト等において一般人が編集・発信した見解・情報
- 3 NPO、消費者団体等が編集・発信した見解・情報（1・2を除く）
- 4 医師が直接発信した見解・情報（1・2を除く）
- 5 科学者（医師を除く）が直接発信した見解・情報（1・2を除く）
- 6 その他（具体的に記入してください： ）

注意：問11～問12は、課題報告書では回答欄がひとまとめになっています。確認しながら入力してください。

問 11 問6でお示したハザードのうち、安全性について以前は気になったが、その後あまり気にならなくなったハザードはありますか。次の選択肢の中から当てはまるものを5つ以内で選び、選んだハザード(Nを除く)ごとに、どのようなことが気にならなくなった理由であると思うかを、1つずつ選んでください。

【選択肢・ハザード】	【気にならなくなった理由】
A 食品添加物	1 リスク評価についての考え方を知ったから
B 残留農薬	2 食品安全委員会の存在を知ったから
C 家畜用抗菌性物質	3 行政によるリスク管理が十分に行われているから
D 器具・容器包装からの溶出化学物質	4 検査結果が公表されているから
E 汚染物質（カドミウム、メチル水銀、ヒ素等）	5 多くの人（行政や企業、団体などを含む。）が、安全性について問題ないことを情報発信しているから
F 有害微生物（細菌等）、ウイルス等による食中毒等	6 信頼できる人（行政や企業、団体などを含む。）が、安全性について問題ないことを情報発信しているから
G BSE（伝達性牛海綿状脳症）	7 安全性について更に気にしなくてはいけないものが出てきたから
H 遺伝子組換え食品等	8 以前と比べて、食品に含有されている量が減ってきていると考えるから
I 体細胞クローン技術を用いて作られた家畜等	9 報道で目にしなくなったから
J いわゆる健康食品	10 その他（具体的に記入してください： ）
K 肥料・飼料等	
L 放射性物質	
M アクリルアミド	
N 特にない	

問 12 問 11 で選択したハザードについて、あなたが食品安全モニターになったことが、そのハザードの安全性について気にならなくなることに影響したと思いますか。当てはまるものを、ハザードごとに選択肢の中から1つずつ選んでください。

【選択肢】

- 1 影響したと思う
- 2 ある程度影響したと思う
- 3 あまり影響していないと思う
- 4 影響していないと思う

問13 食品の安全性に関してわからない用語がある場合、あなたはどのようにして調べようと思いますか。次の選択肢の中から、当てはまるものを3つ以内で選んで下さい。

【選択肢】

- 1 食品安全委員会の用語集(ホームページに掲載されている「第5版暫定版」)
- 2 食品安全委員会の「ビジュアル版」用語集(ホームページに掲載されているもの)

※1、2は下記の場所に掲載されています。

<http://www.fsc.go.jp/yougoshu/yougoshu.html>

- 3 食品安全委員会の「ハザード別情報」(ホームページに掲載)

※3は下記の場所に掲載されています。

http://www.fsc.go.jp/hyouka/hazard/hazard_index.html

- 4 他の省庁・自治体が作成した用語集等の資料・ホームページ
(省庁・自治体名、わかれば資料名も具体的に記入してください:)
- 5 専門書・学術書等
- 6 インターネットの検索エンジン(※注2)で検索して上位にヒットしたページ(ウィキペディア、質問サイト等)
- 7 1～6以外の資料・ホームページなど(具体的に記入してください:)
- 8 その他(具体的に記入してください:)

注2： インターネットで公開されている情報を、キーワードなどを使って検索できる Web サイトのこと。ヤフーやグーグルなどの検索機能がこれに該当します。